

令和 2 年度

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000088		
法人名	ナカジョウ興産株式会社		
事業所名	グループホームつくえ (西ユニット)		
所在地	〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村机299番地		
自己評価作成日	令和2年7月20日	評価結果市町村受理日	令和2年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>基本理念「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさを支えるケア」をもとに利用者が生き甲斐をもち楽しく安心に笑顔が絶えない環境を作っている。また、地域との交流を積極的に図り地域との繋がりが途切れない様にしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、地域住民の愛着が強い旧机小学校の建物を改修し、開設10年を経過している。体育館やグラウンドも利用されており、机地区の防災拠点ともなっている。特に地域との連携や交流を大切にされた運営を心掛けており、これまで夏の恒例行事となった納涼祭には、多くの村民が来訪してくれるほか、認知症カフェの取り組みも進めてきているが、今年はコロナ禍のため従来の取り組みが制約されている。防災のため訓練の回数を増やすとともに、避難訓練には地域の協力が直ぐに駆けつける体制となっており、また、医療面でも大半の利用者が地元診療所の訪問診療を毎月受診できており、医療連携体制の整備が図られている。職員は、基本理念でもある「笑顔」を常に念頭に置いたケアを日々実践している。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で自信を持って唱和し実践に取り組んでいる。	「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさを支えるケア」を基本理念とし、スタッフルームやホール、玄関等に掲示するほか、毎日の朝礼や会議でも唱和して職員への浸透を図っている。理念を念頭において、常に笑顔を絶やさないケアの実践を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の行事にできるだけ参加して交流を深めている。	町内会に加入し、地区の草刈りや神社の祭り等に参加している。ホームの広報誌は村内各町内会で回覧されている。ホームの納涼祭には村内から150人ほどの来訪者があり毎年喜ばれているが、今年はコロナ禍のため縮小して行うことにしている。旧小学校の体育館は、管理を委託されており、地域の皆さんが良く利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催、参加して地域住民に介護、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者や公的機関、地区住民が参加しており広く意見を求めサービスの向上に努めている。	自治会長の他、駐在所や消防署も委員となっており、幅広い委員構成となっている。ホームからは毎回、身体拘束廃止委員会の報告を行い意見を伺っている。話題としては新型コロナ対策が多くなっている。委員から草が伸びているとの意見があり、改善もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月のケア会議の出席し役場や他施設の担当者、地域包括支援センターと情報共有している。それ以外でも積極的に情報交換している。	役場の介護福祉担当者とは、なるべく直接出向いて相談するようにしている。また、毎月参加している地域ケア会議は、相談や情報収集の良い機会となっている。事業所の持ち回りで開催している地域包括支援センター主催の認知症カフェは現在開催延期になっている。生活保護ケースワーカーの定期的な来訪もある。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な禁止行為およびスピーチロックについて掲示や指導をおこなっており職員も理解している。利用者の安全確保の為に玄関の施錠の工夫やセンサーの使用を最小限にするため身体拘束廃止委員会を構成している。	玄関は夜間のみ施錠している。居室では、転倒防止のため夜間の人感センサーを全体で6台配置しており、各家族には説明し了解を得ている。身体拘束適正化指針は作成済みであり、社長や施設長、ケアマネ等が会議を開催して、毎回の運営推進会議で報告している。	身体拘束廃止に係る委員会の規程を作成し、委員や開催内容を明確にすることにより、身体拘束廃止に向けた取り組みが更に透明化されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について知識をつけ防止に努めている。入浴時や更衣交換時に身体に異常がないか確認し記録している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性の話し合いはしていないが必要性があれば地域包括支援センターと連携し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所するとき、契約内容や重要事項説明書を不安や疑問を確認しながら理解、納得してもらえるように分かりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情窓口を開設している。日々の日常会話から聞いたり面会時や運営推進会議に意見や要望を聞き運営に反映している。また、納涼祭では家族会を開き意見を聞いている。	多くの利用者が言葉で要望などを話せる状態にあり、入居者の日頃発する言葉や表情等から、食事の希望などを把握し、気づきノートやタブレットに記録して情報共有している。家族には毎月、広報を送付して近況を伝えている。家族からの要望等は多くはないが、畑作業をさせて欲しい等の要望を暮らしの中で反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や管理職会議で意見を聞く場を設け、代表者や管理者は意見について検討し、良いものは反映できるよう努力している。	毎朝の朝礼時や2ヵ月毎のユニット会議などで、職員から意見が出されて、利用者のトイレ内の手すりの追加や居室の常夜灯設置などの改善が図られている。社長との個別面談は年1回行われており、プライベートを含めて話し合える機会となっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望する勤務条件に出来る限り答えている。昇給、資格手当、夜勤や宿直手当、出張旅費、賞与の支給に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加したり資格取得の為に研修等に配慮、協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お祭りやカラオケ大会、コンサートなどのイベントがあれば参加したり来ていただいたりして職員や利用者の交流を積極的に行っている。合同の研修会などもあれば参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族とご本人様の要望や不安に耳を傾け安心できる関係をきずくとともに、日々の生活の中でも会話や行動から情報をくみ取り、その時々で変更し、安心できる生活が送れるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時不安や困った事が無いようにお話しをお聞きしている。また、ホームに来て頂く機会を作り、要望や不安を傾聴し相談できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望等に耳を傾けながらコミュニケーションを図り関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができる事や習慣にされていた事などを継続して頂き、少しのことで一緒にできる関係を築いている。		

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会の際にお話する機会を作り、必要に応じて電話連絡し家族との関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事などにできる限り参加し、外部との関係を大切にしている。外泊、外出など気軽にできるように努めている。面会規制の時は電話をして頂いたり写真や広報で様子を伝えたりした。	事業所に食材等を届ける地元のスーパーの方と馴染みになってる利用者は、その都度会話を楽しみ、月1回訪問する訪問理容の床屋さんとは、多くの方が馴染みの関係となっている。例年の夏祭りは、来訪者も多く馴染みの人と会う良い機会となっている。今年はコロナ禍のため、開催困難な状況であるが、地域との接点を持ちながら、関係を継続させるための支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様と生活できるように座席など配慮している。一人が好きな利用者様には職員が時折自室訪問してコミュニケーションに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時必要があれば相談等を行っている。ホーム行事の案内状を送り関係の途絶えないように努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活に目を配りご本人様思いなどくみ取るように努めている。	多くの利用者とは会話で意思の疎通ができ、様子などを含めてタブレットや申し送りノートに記載して情報共有している。話に出るのは食事の希望などが多く、エアコンの具合もよく伺っている。七夕の短冊に希望を書かれている場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報を参考にご本人様とご家族様から要望を参考にサービスに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自分の生活ができるように一日ゆくりできるように支声掛け支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録や担当職員などと話し合い、ご家族様、ご本人様の思いを反映できるように努めて作成している。	介護計画は計画作成担当者と居室担当者が中心となり、本人や家族の意向を伺いながら作成している。計画内容はユニット会議において職員間で話し合いの上で決定しており、3ヵ月毎のモニタリングと6ヵ月毎の計画見直しを行いながら、現状に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやユニット会議などで情報を共有し個々の気づきなど配慮して見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	極力できることは柔軟に支援できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花植えなど地域の方と利用者が一緒になって行ったり祭り等では一緒に盆踊りを踊るなど楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回診療所より訪問診療していただいている。その他の病院診療についてはご家族対応であるが、出来ない時はホームで対応している。	大半の利用者は、入居前から事業所の協力医である地元の村診療所をかかりつけ医としており、引き続き、毎月1回の訪問診療を受診している。また、週1回、訪問看護ステーションの看護師の来訪もある。歯科は村内の歯科医院を利用できる。訪問診療のため、外出機会が減っている悩みもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師にきて頂いている。利用者の状態の変化に相談や処置の仕方を教えて頂いたり、訪問診療時への情報提供につながっている。		

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、入院中は密に病院関係者と情報交換を行っている。また、退院についてなどの話し合いもしており利用者や家族や職員が不安にならないよにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設での対応が厳しくなった時のここを事前にご家族と話し合っておき、特養等の施設の申し込みを行い対応を行っている。	入居時に、重度化した場合の事業所の対応を説明しており、自立状態が悪化した際には、特別養護老人ホームの利用に変更する方が多い。終末期の看取りを希望される利用者もいて協力医師もいるが、体制が出来ていない為、取り組みは今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師からのアドバイスや消防署員によるAED講習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回行い、あらゆる事態に備え、職員、地域住民、公的機関への緊急連絡網体制を作成している。	今年度から防災訓練を年6回に増やして訓練を実施している。夜間は2人の夜勤職員と1人の宿直員とで避難誘導を担うが、心強いことに、近所から地域協力員3.4人が直ぐに駆けつける体制が出来ている。事業所は、津波災害等の1次避難所になっているほか、福祉避難所の指定を受け、グラウンドにヘリコプターの発着も可能な地域の防災拠点ともなっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーを気遣い、声がけなど静かに行い、個人情報メモなど他利用者様の目につかないようにしている。	排泄介助の際には、特に声掛けに注意して耳元で小声で声掛けしたり合図して、さりげなく誘導している。また、入浴の際に同性介助が求められるれば対応している。着替えの際にはタオルで隠すなどの配慮をし、居室にはノックして入り、声がけなどは静かに行っている。個人情報のメモなども他入居者の目につかないように配慮している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを尊重し自己決定出来る様支援している。利用者の性格や認知症の症状によってアプローチを変え思いをくみ取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望をくみ取るように努めて、ペースを崩さないように声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の散髪支援を本人様決定で行っている。本人のこだわりあるオシャレは尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節、郷土料理などの定期的に提供している。時々希望料理なども参考にしている。	献立作成や調理は職員が交代で行っている。食事内容はなるべく利用者の希望に沿って提供している。食材は地元スーパーからの配送を利用している。職員と一緒に、ひつまみ団子などの郷土料理を作ったり、テイクアウトや回転ずしの外食を楽しんでいる。また、毎月12日を「豆腐の日」として、地域の食文化の「田楽」を提供するなど、職員は、入居者個々の力を活かし、美味しいものを楽しく食べる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事に配慮して、一日の水分摂取量1500CCを心掛けている。また、咽がある方にはトロミ剤を使用。カロリーや水分制限のある方は個々に合わせて制限している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様の力に応じて声掛けを行い口腔ケアを行っている。汚れなど残っている場合は介助し洗口液など使用している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄回数、時間帯を把握し必要な方には個々にあった声掛けを行っている。	現在は、布パンツで自立の方が全体で10人、リハビリパンツ使用が8人であり、オムツ使用者はいない。夜間ポータブルトイレは7人が使用している。排泄チェック表を活用して適時の声掛けや誘導を行っている。自宅で寝たきりで排泄していたが入居後トイレを使用するようになった方、尿意が有り自力排泄できることが分かってから失禁し無くなった方と、入居後に職員の関わり方で、自立の方向に変化した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、腸内環境を整えるように毎朝ヨーグルトを提供し、水分補給と適度の運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午前中入浴になるが時々午後入浴も提供している。洗身、洗髪のみ介助で行い他は自立を促しゆったり入浴できるように心掛けている。	週2回以上の入浴を基本としている。一般浴槽を使用しており特殊浴槽が必要な方はいない。入浴を嫌がったり同性介助を希望する方には、対応を工夫して支援している。洗身、洗髪を介助し他は自力を促して、ゆったり入浴できるように心掛け、入浴は職員と1対1となる貴重なコミュニケーションの機会ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の午睡は習慣となっているので極力静かな環境にしている。夜間帯は個々に安眠に配慮した明るさ、温度にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月服薬情報を確認し変更等ないか職員同士共有に努めている。服薬は個々に合わせて、見守り、一部介助、全介助で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自主行動を尊重し、事故等ないように支援している。生活歴など参考にできる事を増やせるように支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ本人の希望を聞き外気浴で気分転換を図っている。本人が行きたい場所があればご家族に相談したり、職員で支援可能か検討します。	今年は、新型コロナウイルス対策のため従前のような外出が難しくなっている。数人でのドライブなども、どの程度の外出が適当なのかと思案している。事業所の外に出ての外気浴や近くの畑作業などで対応しているが、コロナ禍にあって外出支援の苦労が続いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できる利用者様のみ所持し、そこから生活に必要な買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人様より希望があれば支援可能な時間帯で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を飾り岩手には無い花などはパークラフトで作り季節を感じようになっている。	旧机小学校の校舎を改装した施設であり、地域住民からも愛されている建物である。季節感ある花や七夕飾りなどが飾られており、明るい雰囲気を感じられる。ホール兼食堂には利用者が集い、カラオケやパズルを楽しんだりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ぬり絵、トランプ、かるたなど目が付き手の届く所にあるので、その日の気分で気の合う利用者様同士で楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた小物類、ご家族写真を装飾し、レクリエーションで行ったぬり絵など飾って本人の意向のままの部屋になっている。	教室を改装した居室にはエアコンやベッド、クローゼット、小学生が使用した机と椅子が備え付けてある。利用者は小筆筒や家族写真などを持ち込んでいる。壁面には自分の塗り絵などの作品を飾ったりして、それぞれに居心地の良い居室となっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室は花などの名前に絵があり、名札を付け、トイレにはトイレまでの順路、大きくトイレと表示して間違いの少ないようにご本人様の目の高さに貼って工夫してある。		